

参考資料 1

**「杉並区まち・ひと・しごと
創生総合戦略体系図」**

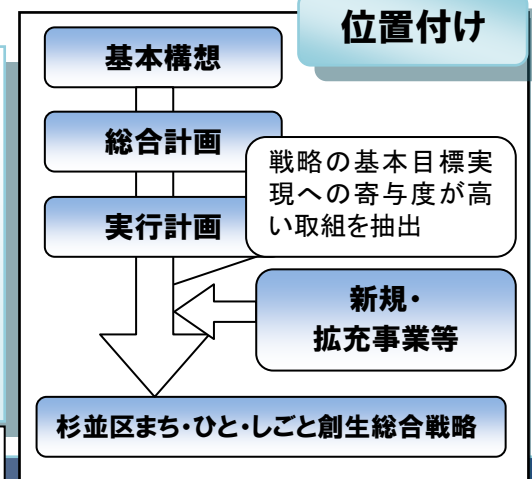
将来にわたる杉並区と地方の発展のために -杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)の策定-

計画期間 平成 27 年度～31 年度

策定の趣旨

- ◆平成 26 年 区は、地方との共存共栄を図る観点から「自治体スクラム支援」や区域外特養の整備の取組を踏まえ、「新たな広域連携」の可能性について調査・研究を開始
 - ◆平成 26 年 11 月 国は、地方に対して地方版総合戦略策定の努力義務を規定した「まち・ひと・しごと創生法」を制定、12 月 国の「長期ビジョン」「総合戦略」を閣議決定。
 - ◆区 出生率は 0.99 と低位。日本全体の女性人口が当分の間減少していくことを鑑みると、仮に出生率が向上しても、女性人口×出生率で決まる出生数は、減少することも考えられる。団塊の世代が 75 歳に達し、後期高齢者が増加、死亡数も増加。区外からの転入者を人口増の主な要因としている区としては、日本全体の人口減少の影響を受けることになる。
 - ◆地方創生を人口が減少している地方の問題あるいは都市と地方の二項対立ととらえる風潮があるが、人口減少に歯止めをかけ、活力ある日本社会を維持していくためには、人口が減少していない自治体も日本全体の問題と認識し、共に取り組むという視点が必要
- ⇒ 地方創生を自らの問題として正面から受け止め、総合戦略を策定

位置付け



基本目標1

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【新】：新規事業 11 【拡】：拡充事業 10

現 状	平成 31 年度の目標	目標実現のための基本的方向	主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ○待機児童解消に向け平成 22 年度から保育定員を約 2,890 人拡充 ○平成 17 年以降は、出生数及び出生率ともに増加傾向 ○結婚意向のある男女約 8 割。 ○希望する子どもの数「2 人」が約 5 割で 1 位 平均では、2.27 人 ○今後子どもを持つ条件「地域の保育サービスの充実」が 1 位 	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事と生活の調和が図られていると感じる割合 64.2%→75% ○若者(18～39歳)の定住意向 77.3%→85% ○出生数に占める第二子以上の割合 38.8%→45% 	<ul style="list-style-type: none"> ○結婚の希望をかなえるための支援 ○安心して妊娠・出産するための支援 ○安心して子育てするための支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○結婚に向けた出会いの場の創出【新】 ○妊娠期からの相談・支援の充実【拡】 ○多子世帯への子育て応援券の増額交付【拡】 ○認可保育所等の整備 ○学童クラブの利用時間の延長【拡】 ○多子世帯の保育料等の負担軽減の実施【拡】 ○ファミリー向け住宅の供給促進の支援【新】

基本目標2

地方との連携により、豊かな暮らしをつくる

現 状	平成 31 年度の目標	目標実現のための基本的方向	主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ○都市と地方の行政課題の解決に向け、自治体連携により静岡県南伊豆町に、区民が入居できる特養ホームを整備中 ○交流自治体との小学生の交流・体験学習事業には、多くの子どもが参加 ○40～60代 地方での暮らし してみたい・興味がある 約4割 	<ul style="list-style-type: none"> ○国内交流自治体との連携事業への参加者数 2,572 人→3,200 人 ○連携事業を通じて暮らしが豊かになった区民の割合(新規調査) → 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な体験を通じた子どもの健やかな成長の支援 ○地方の地域資源の活用による豊かな生活づくりの支援 ○連携による結婚・就労の希望をかなえるための支援 ○新たな住まい方の提案 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流自治体物産展・情報発信の充実【拡】 ○交流自治体とおき情報の発信【新】 ○交流自治体体験・交流ツアーの開催【拡】 ○「すぎなみ地域おこし協力隊」の創設・活動支援【新】 ○交流自治体との連携による若者の出会いの場の創出支援【拡】 ○ふるさと就労体験の実施【新】 ○南伊豆町との連携による特別養護老人ホームの整備 ○南伊豆町「お試し移住事業」への参加支援【新】 ○「おぢやクラインガルテンふれあいの里」の利用支援【新】

基本目標3

来街者を増やし、まちのにぎわいを創出する

現 状	平成 31 年度の目標	目標実現のための基本的方向	主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ○「あるあるプロジェクト」を民間事業者と協働で実施。SNS へのアクセス数やイベント参加者数が増加 ○全国的な有名スポットはないが、様々なイベント等で多くの来街者が訪れている ○訪都外国人は増えているが、訪問先は都心部や一部の観光地に集中 ○訪日外国人旅行者数第一位の台湾と少年野球や阿波おどりを通じて交流を深めている 	<ul style="list-style-type: none"> ○区内全駅の 1 日平均乗降客数 平成 26 年度 70.6 万人→74.5 万人 ○外国人を含む来街者の増加を実感している店舗の割合(新規調査) → 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域に根差した観光資源の魅力向上 ○情報発信力の強化 ○外国人来街者の誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ○座・高円寺を拠点としたにぎわい創出【拡】 ○アニメーションミュージアムの充実【拡】 ○地域イベントの開催支援 ○情報発信の体制強化【新】 ○駅周辺トランスボックスラッピング実施【新】 ○台湾からの教育旅行等の誘致促進【拡】 ○台北市との文化・芸術交流の実施【新】 ○宿泊施設の拡充をはじめとする訪日外国人の観光基盤整備【新】